

トライ!

日和田小学校 第5学年
学年だより 第12号
令和4年5月24日発行

困ったことがあったとき

新しいクラスでの学校生活にも徐々に慣れ始めた頃かと思います。今後、子どもたちが学校生活において、困ることや悩むことが出てくると思います。そんな時に、私たち教師や保護者の皆様がどのように対応していくべきかをまとめました。もちろん、これも一つの例ですので、必ずこのように対応してくださいというものではありません。ぜひ参考にいただければと思います。



子どもはまだ未熟です。うそをつかずとも、自分に都合の悪いことは伝えないこともあります。そのため、教師や保護者は子どもの気持ちに寄り添いながらも、いかに中立な立場でいられるかが大切だと思います。子どもどうしてトラブルがあった際、教師が行うことは**事実の整理**です。「あなたのここが悪い。だから、反省して、謝りなさい」と、教師が善悪を判断し、反省させ、謝罪させてしまっただけでは、大人がいないとトラブルを解決することができない人になります。

児童自身が人間関係のトラブルを解決していくことも、学校での大切な学習だと思っています。大人がトラブルをすべて解決してあげるだけでは、子どもたちの成長につながりません。ただ、お子さんの実態によって、サポートのしかたも変わってきます。具体的に、例をあげてみました。

	子どもの成長度	保護者の対応
A	10%	子どもの話を聞き、その話を保護者が担任に伝えて、担任が解決する。
B	30%	子どもの話を聞き、「先生にも伝えておくからね」と子どもに話し、実際に保護者が担任に伝えて、 <u>担任がお子さんに話を聞き、解決につなげる。</u>
C	50%	子どもの話を聞き、「先生にも伝えておくからね。けれど、自分で先生に伝えてごらん」と子どもに話し、担任にも伝えて、 <u>お子さんが担任に話をし、解決につなげる。</u>
D	60%	子どもの話を聞き、解決方法を話し合い、「先生に相談してごらん。」と話す。 <u>お子さんには黙って、事情を担任に話しておく。</u>
E	70%	子どもの話を聞き、解決方法を話し合い、「先生に相談してごらん。」と話す。 (保護者が担任に話をしない。)
F	80%	子どもの話を聞き、「〇〇さんと、こんなふうに話してみたら」と解決方法を話し合い、 <u>自分で解決させつつも・・・実は、事情を担任に話しておく。</u>
G	90%	子どもの話を聞き、「〇〇さんと、こんなふうに話してみたら」と解決方法を話し合い、自分で解決させる。



現在のお子さんは、どの段階でしょうか？徐々に、自分自身で解決することができるように、ステップを踏んでいけたらと思っています。

また、お子さんが教師の指導に関して悩んでいる場合は、ぜひ直接学校までご連絡いただきたいと思います。その事実や保護者の皆様のご意見を真摯に受け止め、改善していきたいと思っています。よろしく願いいたします。